

## お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回示します以下の研究では、患者さんのカルテの記録を使用します。

この研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテを利用することをご了解いただけない方は、下記【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

### 【研究名】

早期乳がんアンストラサイクリンレジメンにおけるペグフィルグラスチムの有効性と安全性の評価

### 【研究機関】 愛媛大学医学部附属病院薬剤部

### 【研究責任者】 田中亮裕（薬剤部 准教授）

### 【目的】

抗がん剤治療では、好中球が少なくなると熱が出ること（FN）が問題になります。その対応策として好中球を増やす注射薬（G-CSF）が使われます。2014年11月に、G-CSFの新薬としてペグフィルグラスチムが発売され、乳がん術前、術後補助化学療法が安全に行えることが期待されます。

本研究では、愛媛大学医学部附属病院で乳がんアンストラサイクリン系抗がん剤治療が行われた患者さんを対象に、ペグフィルグラスチムの有効性と安全性について実態調査を行います。

### 【研究意義】

日本人を対象とした乳がんタキサン系抗がん剤に対するペグフィルグラスチムの一次予防投与の有効性は報告されていますが、アンストラサイクリン系抗がん剤のデータはありません。乳がんアンストラサイクリン系抗がん剤におけるペグフィルグラスチムの評価は患者さんの副作用のより良い管理に繋がることが期待されます。

### 【研究方法】

対象患者：2014年1月～2017年2月に愛媛大学医学部附属病院で乳がん周術期治療としてアンストラサイクリンレジメンを投与終了した患者さん

調査方法：電子カルテ（IBM）を用いた後方視的調査

調査項目：年齢、性別、体表面積、疾患、stage、治療目的（術前・術後化学療法）、レジメン名、RDI、投与前の白血球数、好中球数、血清クレアチニン値、AST値、ALT値、G-CSFの投与の有無、投与回数、その薬剤名、ニューキノロン系抗生剤内服の有無、FNの有無、FNによる入院の有無と入院期間、点滴抗生剤の使用の有無、DPC総点数、ペグフィルグラスチム投与患者においてはその副作用

### 【研究期間】

2017年6月～2018年3月を予定。

**【個人情報の取り扱い】**

収集した情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる情報を除いて匿名化いたします。個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

さらに詳しい本研究の内容をお知りになりたい場合は、【お問い合わせ先】までご連絡ください。他の患者さんの個人情報の保護、および、知的財産の保護等に支障がない範囲でお答えいたします。

**【お問い合わせ先】**

愛媛大学医学部附属病院薬剤部 准教授 田中 亮裕

791-0295 愛媛県東温市志津川

電話番号:089-960-5731

e-mail: akiki@m.ehime-u.ac.jp

**【情報管理責任者】** 薬剤主任 河添 仁